



優しく稚魚を放流する園児たち

園児がフナ放流「大きくなってね」

かしわこども園(鳳至真貴園長)とかしわあつぷるこども園(田中ゆかり園長)の年長児41人が9月18日、平滝沼にマブナの稚魚を放流しました。

これは、子どもたちに自然や魚に触れながら生態系を保全することの大切さを学んでもらおうと、西津軽新田漁業協同組合(伊藤良二代表理事組合長)が毎年実施しているもの。今年は、生後1年で体長約2~3cmのマブナ2,500尾を用意しました。

水辺に並んだ園児たちは、バケツの中で泳ぐ稚魚に「大きくなってね」と声をかけながら放流。かしわこども園の田中結利君(6歳)は「魚は小さくてかわいかった。長生きしてほしい」と成長を願っていました。

溢れ出す「縄文ロマン」体感

縄文機運が高まる中、「縄文ロマン」バスツアーが9月28日から10月13日までの土日、運行されました。

秋晴れとなった29日、参加者9人はボランティアガイドの解説に耳を傾けながら田小屋野貝塚、亀ヶ岡石器時代遺跡などを散策。市内3カ所の資料館では、当時の技術の高さや精神文化に思いを巡らせていました。

参加した五所川原市のタクシー運転手・秋元正俊さんは、お客さんを乗せて遺跡に年10回ほど訪れるそうです。秋元さんは「現地が特定できずにいたが、これからはお客さんを案内できる。ガイドの解説が細やかで、特に人骨出土地点での説明は感動しました」と息を弾ませていました。



縄文館を訪れたツアー一行



国体出場への抱負を語った古坂さん

レベルの高い全国で活躍を誓う

柏中3年の古坂みなみさんが、本県バスケットボール少年女子チームのメンバーに選抜され、8月18日開催の東北総合体育大会(福島市)でチームが見事初優勝。10月4日に開幕する茨城国体バスケットボール競技への出場を決めました。

国体遠征を前に9月30日、古坂さんは福島市長を訪問し「ドリブル突破からのシュートが得意。全国の高いレベルの中で一戦一戦を大事に、良い勝ち方をしたい」と意気込みを報告。福島市長から「今後もっと伸びる選手。練習の成果を発揮して」と激励されました。

茨城国体では、チームは1回戦を突破し、ベスト16の成績を収めました。

地域に伝わる芸と技の祭典

市内で継承されている伝統芸能が一堂に会する「第15回伝統芸能保存フェスタ」が10月8日、松の館で開催され、市民ら約250人が、多様な民俗芸能の奥深さを堪能しました。

フェスタは、つがる市登山囃子保存会による登山囃子で威勢よく開演。続いて三方荒神鹿島獅子保存会、ホーハイ節保存会、弥三郎節保存会、木造甚句保存会、出野里獅子踊保存会が、それぞれの地域に根差した芸と技で観衆を魅了しました。

また、今年は板柳町の表町七福神舞保存会が特別出演し、明治初期から祝い事のある家などで披露されてきた同町指定文化財「表町七福神舞」を披露。七福神に扮した女性らによる縁起のいい舞が観衆を楽しませました。



「みさいな」のかけ声が特徴的な「表町七福神舞」

一枝オーナーが収穫体験

つがるにしきた農協(長内隆彦代表理事組合長)が毎年恒例の「りんご一枝オーナー」を募集し、今年は東京、神奈川、千葉から610人(1,007口)の申し込みがありました。そのオーナーの中から参加者を募る収穫体験ツアーが10月15日から2泊3日で行われ、51人の希望者から選ばれた20人をつがるブランド推進会議がツアーに優待しました。

15日、森田町の七戸竹男さんの園地に到着した一行は、営農指導員からおいしいりんごの選び方を教わった後、食べごろの「ジョナゴールド」を選びすぎり、収穫を体験しました。参加した深山利子さんは「つがるブランドりんごは毎年食べています。収穫はどれもおいしいそうで迷いました」と話していました。



収穫を楽しむツアー客



綱引きで勝利「やった!やった!」

みんなと仲良く こども赤十字

10月16日、西北五地区青少年指導者協議会幼児部会(倉内泰雄部会長)主催の「第25回西北五地区こども赤十字交流会」が森田体育センターで開催され、こども赤十字に加盟する10の保育園・幼稚園の園児114人が、交流の輪を広げました。

市内からは、いなほ保育園、しげた保育園、もりた保育園、かしわこども園、菰槌保育園、かしわあつがるこども園の園児が参加。4つの組に分かれた園児たちは、綱引きやリレー、フォークダンスなどを元気いっぱい楽しみながら、初めて会った友だちとも交流を深めていました。

しげた保育園の笠井舞幸君(6歳)は「新しい友だちとも仲良く遊んで楽しかった」と笑顔で話していました。

まちの環境美化に貢献

10月16日、市シルバー人材センター(吉田謹治理事長)の会員ら60人が、JR木造駅から旧つがる警察署前までの歩道約1kmで清掃奉仕活動を行いました。

これは、毎年10月のシルバー事業普及啓発促進月間に合わせて全国的に実施されているもの。県内でも20のセンターが、それぞれの地域で施設や公園、街路などを清掃しています。

この日会員らは、伸びた雑草の草刈りと道路脇にたまった土砂や枯れ葉の除去などで汗を流し、用意した土のう袋120袋分を回収しました。同センターの野呂事務局長は「空き家前の歩道は掃除する人がいない状況。今後も必要な地域を選びながら活動を続けたい」と話していました。



清掃活動に精を出す会員ら



来場者の質問に答える今院長

極端はダメ、バランスのよい生活を

10月17日、「肥満と痩せの健康問題」をテーマにした健康づくり講座が市民健康づくりセンターで開催され、約70人の市民が自分の健康状態を振り返りました。

講座では、セツ石内科(鯉ヶ沢町)の今昭人院長が講師として登壇。生活習慣病を予防するための基本である食事を中心に、血糖値の急激な上昇降下予防には「おかずから食べる」ことや、バランスの良い食事が認知症予防につながることを解説しました。今院長は「いろんな食材をバランスよく食べるのが大切。食生活、適度な運動、社会参加をして、バランスのよい生活を心がけよう」と呼びかけました。講座後、健康チェックコーナーで多くの参加者が自身の健康を確認しました。